SPECIAL ISSUE

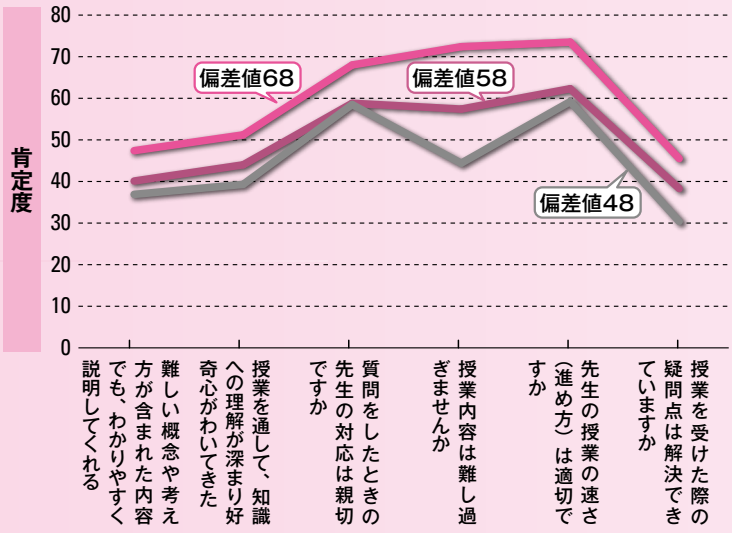
特集

学びに向かう授業をつくる

―評価を授業改善に生かす

生徒が主体的に学ぶために、授業をどう改善すれば良いのか。今号では、教師・生徒による「授業評価」を授業改善につなげる方法を考える。

生徒は授業をどう評価しているか（2年生）



出典／Benesse教育研究開発センター「学習活動の検証に関わる共同研究」（2008年）などを基に作成

全国の高校２年生への調査結果によると、**「授業で疑問点が解決」できない生徒が多い。**また、授業の難度やスピードは、学力層によって肯定度に差がある。

富山県立高岡高校（P.6）、広島県立尾道北高校（P.10）の事例を基に整理

1 授業改善に取り組む背景

生徒の実態
- 教師が細かく指示をしないと学習に向かうことが出来ない（高岡高校）
- 通塾率が上がり、学校の教科指導の求心力が低下（尾道北高校）

教師の実態
- 知識の教え込みが中心で、考えさせる授業になっていない（尾道北高校）
- 異動サイクルの短期化で、指導ノウハウを校内に蓄積しにくい（高岡高校）
- 生徒の授業態度が良いと、「指導に問題はない」と安心してしまう（尾道北高校）

授業評価の必要性

- 生徒の実態を客観的に把握し、共有すること
- 他の教師の授業から学ぶ姿勢
- 生徒と教師の相互作用により、学びに向かう授業をつくる

2 授業評価・学習評価の種類（評価者と評価対象による分類）

評価者（誰が評価するか）	評価対象（誰を評価するか）：教師	評価対象（誰を評価するか）：生徒
教師	・授業の相互評価、研究授業による授業評価など ▶高岡高校「互見授業」	・定期テスト、実力テストによる学習評価 ・授業中の形成的評価など ▶高岡高校「添削プリント」
生徒	・生徒による授業評価など ▶尾道北高校「授業評価」	・授業の振り返り・ポートフォリオ評価など ▶尾道北高校「授業評価を通した自己学習評価」

3 授業評価、学習評価のメリット

教師同士による「互見授業」
自分の授業では見えない生徒の様子や他の教師と生徒の関係を客観的に見ることが出来る

生徒による「授業評価」
データ分析・共有により、組織的に授業改善に取り組むことが出来る

「添削プリント」による学習評価
生徒の提出率や解答の状況から、年度ごとの生徒の学力や課題を評価できる

授業評価を通した生徒の自己評価
生徒の「授業評価力」が高まれば、生徒の授業参画への意識が高まる